

会 議 録

会議名	令和２年度第３回東浦町社会教育委員会	
開催日時	令和３年３月２３日（火） 午前１０時から午前１１時５０分まで	
開催場所	森岡コミュニティセンター ホール	
出席者	委員	石原弘幸氏、久米さちへ氏、平井伸幸氏、二宮邦子氏、水野智美氏、高崎義幸氏、月原康雄氏、杉浦義治氏、平松進吾氏、梶山博史氏、橋本一男氏
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、中央図書館長、スポーツ課長、生涯学習係長、文化財係長、生涯学習指導員
欠席者	松下玲子氏、外山淳子氏	
議題	１ 令和３年度の取組について ２ その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容	◆あいさつ 委員長 教育長 以降は委員長が議事を取り回す。 ◇委員長 次第に従い議事を進める。次第１「令和３年度の取組について」を議題とし、事務局から説明を求める。はじめに、生涯学習課の説明を求める。 ◆事務局 生涯学習課に係る令和３年度の取組について、概要を説明。生涯学習課の取組について、配付資料に基づき説明。 ・施設や設備を適正に維持管理して施設の長寿命化を図るために、文化センターならびに地区コミュニティセンターの改修事業を行う。 ・文化センターならびに地区コミュニティセンターの舞台吊物設備の保守点検を行う。 ・文化センターが、新型コロナワクチン接種会場になるため、地区のコミュニティセンターなどを利用して、事業を計画する。 ・各地区コミュニティセンターも、感染対策をしっかりと行い、	

	事業を進める。 文化財・資料館の取組について、配付資料に基づき説明。 ・発掘調査で明らかになった天白遺跡の保存と内容を広く紹介することを目的に、天白遺跡公園（仮称）を整備する。 ・郷土資料館の施設や設備を適正に維持管理して施設の長寿命化を図るために、施設の改修事業を行う。 ・春、秋の企画展のほかに、ミニ企画展を3回計画する。 ◇委員長 来年度は文化センターが使えないということは、第2回の社会教育委員会で、同好会が会場を予約するのが大変だと言われているが、さらに大変になるだろうと予想がつく。 事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 生涯学習課だけでなく、中央図書館やスポーツ課でも、例年事業を行っていたが、来年度は行わない、または規模を縮小するものがあったら教えてほしい。 ◆事務局 元年度まで実施していたジュニアリーダー活動が今年度より廃止された。これは、「こどものまち」の企画がリーダー養成の面をもっているので事業を集約したからである。 今年度は、コロナ禍の中で実施できなかった事業が多かった。来年度は、コロナ禍の影響がまだあると思うが、例年進めてきた事業は、極力進めていきたい。 ◇委員長 天白遺跡のところに公園ができるということであるが、出来上がりが楽しみである。 生涯学習課へのさらなる意見がないことを確認し、続いて図書館の説明を求める。 ◆事務局 図書館に係る令和3年度の取組について、概要を説明。 ・開館30周年記念事業を行う。記念イベントの実施と記念グッズの作成・販売。 ・中央図書館外灯を改修し、LED化することにより、長寿命化を図る。 ・視聴覚コーナーの再編を行う。 ・指定管理者制度導入スケジュールの説明。 ・来年度規模を縮小する事業はない。
--	--

	◇委員長 記念イベント講師の「わたなべちなつ」氏は、有名な方で楽しみにしている。 事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 講師の方は有名な方ですが、本は置いてあるか。また、いつから講師依頼の折衝を始めたのか。 ◆事務局 本は置いてあり、さらに増やそうと計画している。講師折衝については、業者に予算の目安を提示して「地元の方で有名な人」ということで、去年の段階で依頼した。 ◇委員 すばらしい講師の方で驚いている。 ◇委員 予算書の読み方について教えてほしい。30周年記念グッズでトートバックを300円で500個作成して販売する。しかし、予算書の「物品等売上金」が「1千円」となっている。売り上げが分からないものは「1千円」とするのか、一番売れなかったことを想定して「1千円」としているのか教えてほしい。 ◆事務局 とりあえずいくら売れるかわからないので、「ここに歳入を入れる」という意味で「1千円」と入れている。 ◇委員 今後の要望だが、今回30周年ということで、いろいろな事業が計画された。当然協議会の委員の方や職員の方々が知恵を出して計画したと考える。立派な30周年事業になると思う。ただ、自分の考えでは、昨年度の段階で、社会教育委員のみなさんにも、基本構想の原点から進展して事業の内容を考えてもらえるようにすることが、社会教育委員会の在り方でないかと思う。今後、周年行事の際は、社会教育委員会との関わりも検討してほしい。 ◇委員 指定管理者制度は、民間に委託されるということで、民間のアイデアで新しい取組が期待できる。ただ、ここ数年、図書館ではよむらびのキャラクターやコンサートのイベント、図書館サポーターなどいろいろ積極的に企画されてきた。これが、指定管理者
--	--

	に移行した場合、取り組んできたことがどうなるのか教えてほしい。 ◆事務局 サポーターの継続やよむらびの活用など、今までの取組は継続して、さらに良くなるようにすることを基本方針と考えている。 ◇委員 指定管理者制度にすると、町の財政的負担は少なくなるか。今、雇用されている人はどうなるのか。 ◆事務局 令和2年度予算額と業者から出された見積もりは同じぐらいであった。正職員は全員異動となるが、図書館の担当は置く。会計年度職員については、指定管理業者が決まった後、協定を結ぶときに、極力雇用していただけるよう依頼する予定。 ◇委員 雇用主が変わるだけで、継続して仕事ができるということですね。 ところで、資料館と図書館には、資料を保存するという共通の役目がある。そこで、密接な関係ができないかと思う。ある町の図書館では、推薦図書に出てくる道具を資料館から出してきて展示する。そうすると、資料館の展示物にも興味が出てきて見学に行くというような相乗効果が出てくるということであった。こういう場所が、新しい図書館のコーナーにできないかと思っている。また、資料の保存として必要なVHSのテープは、デッキがないのならデジタル化して残してほしい。 地域に祭ってある観音さんなどを維持することが困難で、なくなってしまうことがある。町で、周りの木を伐採するなど環境を整えていただだけでもありがたい。 現在、図書館には、地元出身の方の特別室ができています。さらに、伝統ある東浦町なので、東浦町出身の方の書物などを広く募集すると、卒業生のコーナーができるのではないかと。それが、郷土に対する愛着の一助になると考える。 ◇委員長 図書館へのさらなる意見がないことを確認し、続いてスポーツ課の説明を求める。 ◆事務局 スポーツ課に係る取組について、配付資料に基づき説明。 ・南部グラウンド管理棟の屋根が老朽化したので、改修工事を
--	---

	行い、施設の長寿命化を図る。 ・体育館・はなのき会館の照明器具をLED化する。 ・来年度は、文化センターのホールが使用できないので、体育館やふれあいセンターが受け皿になると考えて、施設管理していく。 ・来年度規模を縮小する事業はない。 ◇委員長 事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。 ◇委員 東浦マラソンの日程について、昨年度の大会では、近隣のマラソン大会と重なったので、参加者が減ったと言われた。その点を考慮して、他の大会と被らないように計画を立てたのか、または、他の大会と被るのは仕方ないが、少ないなりに他の対応を考えたのか。 ◆事務局 日付は、第3日曜日にしている。日を変えても、やはり他の行事や大会と重なってしまうので同様とした。コロナ禍であるので、対策を講じながら実施できることを考えなければいけない。今までの大会よりは、人数を制限したり、町内を優先したりすることを考えている。 ◇委員 コロナ禍で大量の人を集めることは難しい。また、近隣でも大会があるので、そこから人を集めることも難しい。人数を絞って実施するということであれば、その方向でお願いしたい。 ◇委員長 次第の1へのさらなる意見がないことを確認し、次第の1の審議終了を宣告。 次第の2「その他」について確認する。ここでは、委員から、東浦町の社会教育等について、日頃の考えを出し合う時間とした。話し合う中で、共通の話題が出てきたら、今後検討する時間を設けていきたい。 ◇委員 地区のコミュニティセンターは、公民館なのかということについて確認したい。昨年度、石浜コミュニティに関わっていた。以前は、コミュニティまつりや総会の反省会で、飲食をともにしながらコミュニケーションを図ることができたが、自分の時はできなかった。その理由を職員の方に聞いたら、社会教育施設である
--	--

	ので、飲食、特に飲酒はふさわしくないということであった。公民館は社会教育施設で、社会教育法にのっとった施設である。コミュニティセンターは、社会教育法から除外された施設である。東浦町の施設は、昔は公民館であったが、今はコミュニティセンターになっている。今の管轄はどちらになっているのか教えてほしい。 ◆事務局 名称はコミュニティセンターに変えたけれども、社会教育法上の公民館に当たる。地域の活動の拠点ということをみなさんに認識していただくために名称を変更した。 ◇委員 公民館であり、地域の活動を活発にしたいということであるなら、反省会で飲食を共にすることは絆づくりにつながっていたと思うので、方向性としては逆行していないか。以前社会教育委員会の講演会で、「公民館は社会教育を行う場であり、パブリックを作る場である。例えば、陶芸教室であったら、陶芸を習うだけでなく、参加者同士の絆を作ることが公民館の役割である」という話であり、感銘を受けた。やはり、コミュニティ活動を活発にするためには、飲食を伴う反省会も進めていくべきではないかと考えている。一度検討していただきたい。 ◆事務局 飲食を共にする会はコミュニケーションを深める上には大切だと考えるが、やはり公民館には使用上の制約がある。 また、東浦町の公民館は、生路以外は国の補助金を活用して作られているので、公民館としての利用の制限があることもご理解いただきたい。ただ、今後、公共施設の再編を考えていく上で、どういう施設であれば地域の方が喜んでいただけるかも考えていきたい。 ◇委員長 各地区の集会所や老人憩の家は、飲食可能か。 ◆事務局 集会所は町の施設ではないので町から何か制限することはない。飲食は可能と思う。老人憩の家は、町の施設だが飲食は可能である。ただ、公共施設であることを考慮して使用してもらっている。 ◇委員 町長は、「何事も工夫して行ってほしい」と言われている。目的
--	--

	を達成するためには、役所が弾力的に取り組んでくれたらいいと考えている。こうなれば、コミュニティの活動ももっと活発になることが多いと考えている。 ◇委員 社会教育委員会に参加して3回目であるが、自分の意見を言えるということはあるがたいことである。今までの2回は報告を聴くだけであった。社会教育委員として、自分が役割を果たすことができると思われることが二つある。一つは、東浦町は各サークルががんばって活動している。その活動を結びつけることができるのではと考えている。例えば、「コロナに負けない文化展」というテーマで新春文化展が行われた。その中に「多文化共生ひがしうら」が企画した外国籍の方が作成した生け花を展示したり、かつて東浦町が経験した伝染病に対応した藤江の話や資料を紹介したりできるのではないか。そのような働きかけをできるのが、社会教育委員ではないかと考えている。もう一つは、65歳の成人式の中で、これからの町やコミュニティのリーダーになってほしいとか、老人会の活動に対してもこんな老人会にしてほしいというような意見が企画の中で出せるのではないかと考えている。 ◇委員長 自分も、65歳の成人式を実施するだけでなく、その後のことも考えていただきたいと思っている。 ◇委員 先ほどの委員の意見がいいと思った。自分は、行政組織は忙しい。また、行政組織は法律に基づいてきっちりやったほうがいいと考えている。これは、だれにとっても公平であると考えからである。公共サービスには人員や予算で限界があり、組織同士の連携も難しい。そこで、NPO法人や地域の諸団体が行政の行き届かないところを行っていくと考えている。社会教育委員もアドバイザー的な役割として、新しい公共の担い手として活躍できると考えている。 ◇委員 今日、文化財の維持ができなくて壊れていくという話があった。自分も散策していると、東浦町のお地蔵さんや石仏がなくなっていることがある。地域の問題だけでなく、どこかが支援しなければいけないと考えている。 ◇委員長 文化財の委員をやっているが、自分も歯がゆい思いをしている。立派な遺跡は何とか委員会でも対応できるが、地域にある昔から
--	--

の営みの中にあるものについては、保存していくのが難しいところがある。今回のように、いろいろな情報をいただくと今後調査もできるのではないかと思います。

◇委員

この社会教育委員会に参加すると、地域の活動や行政の活動を知ることができる。ただ、子どもたちになかなか教えることができていない。子どもたちは地域で活躍していくので、子どもたちに地域の活動などを紹介することにより、地域に関心を持てる大人に成長できるようにしていきたい。

◇委員

町には、「東浦町中央図書館協議会」や「子ども若者会議」などの委員会がたくさんある。町のホームページの議事録を見れば活動内容はわかるが、委員会同士のつながりはあまりない。議案によっては、連携があってもいいのではと考えている。

◇委員

アフタースクールで各学校に行っている。ある学校では、シャワートイレが設置してあるが、子どもはやけどをするから使えないということがあった。実際に事故があったみたいで、現在も故障中で使われていない。また、ある学校では、和式のトイレなので、なかなか利用しないことがある。子どもの話を聞くと、シャワートイレを使ったことがないという学校もある。また、家でも教えてもらっていない。シャワートイレを使っている学校もある。1年生のトイレの使い方の指導が、今どうなっているかと考えていた。

◇委員

本校の子どもたちは、家でシャワートイレを利用している。東浦町は、順番にトイレの洋式化がすすめられている。自分の学校とは実態が違っている。

◆教育長

一度学校の実態を調べてみる。

◇委員長

貴重なご意見をいただいた。また、みなさんの日ごろのお考えも知ることができた。これから、町内外において、自分が社会教育委員だという自覚をもって、アンテナを高くしていただきたい。そして、いろいろな町の施策に対して、自分だったらどういうことを提案していきたいか考えていただければありがたい。

他に質問意見がないことを確認し、議事の終了を宣告。

	◆生涯学習課長 次年度第1回委員会の開催日については、新年度早々に決定して連絡。
備考	なし